

令和6年度「児童生徒の携帯電話利用状況等に関するアンケート調査結果」について

群馬県警察本部子供・女性安全対策課

1 目的

近年、SNS 等の利用に起因して子供が犯罪に遭うケースが跡を絶たない状況にあることから、学校の児童・生徒に対し、携帯電話等の利用状況に関するアンケート調査を行ったもの

2 調査対象

小学校5年生～高校2年生の合計7,116人
(小学校30校、中学校12校、高等学校6校 合計48校)

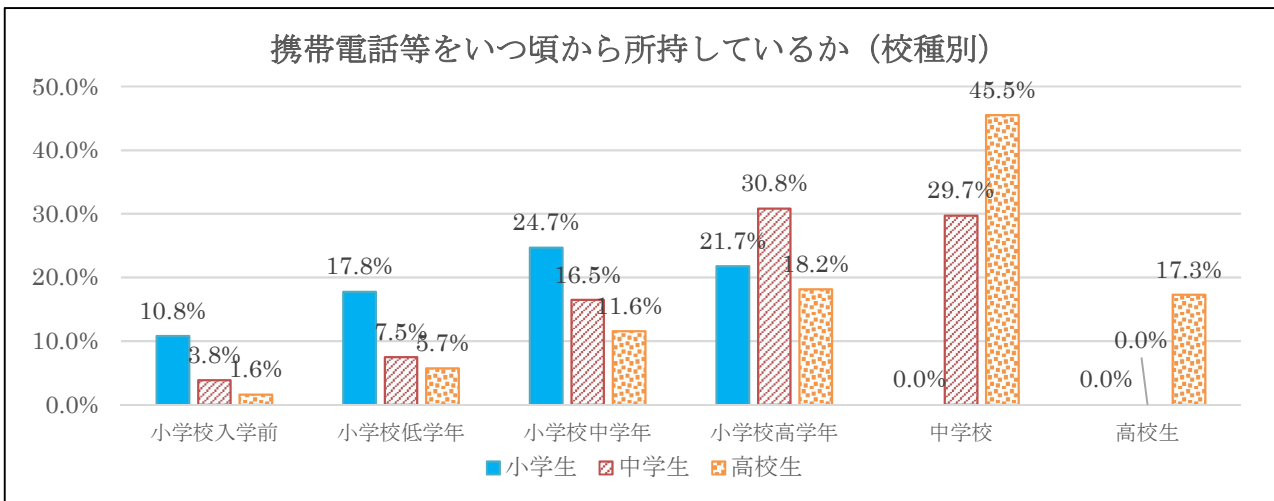
3 調査期間

令和6年10月1日(火)から令和6年10月15日(火)までの間

4 調査結果

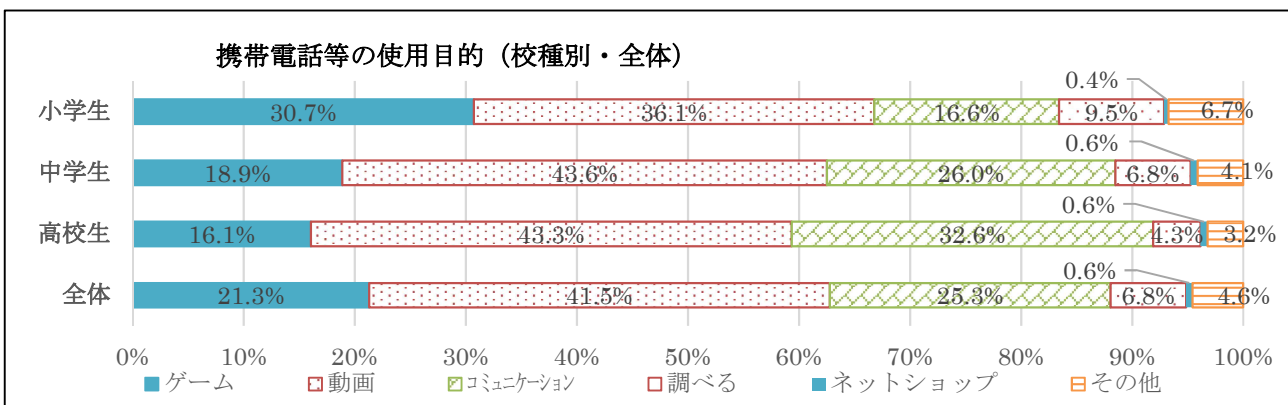
(1) 基本情報

ア 携帯電話等(携帯電話、タブレット)を所持した時期



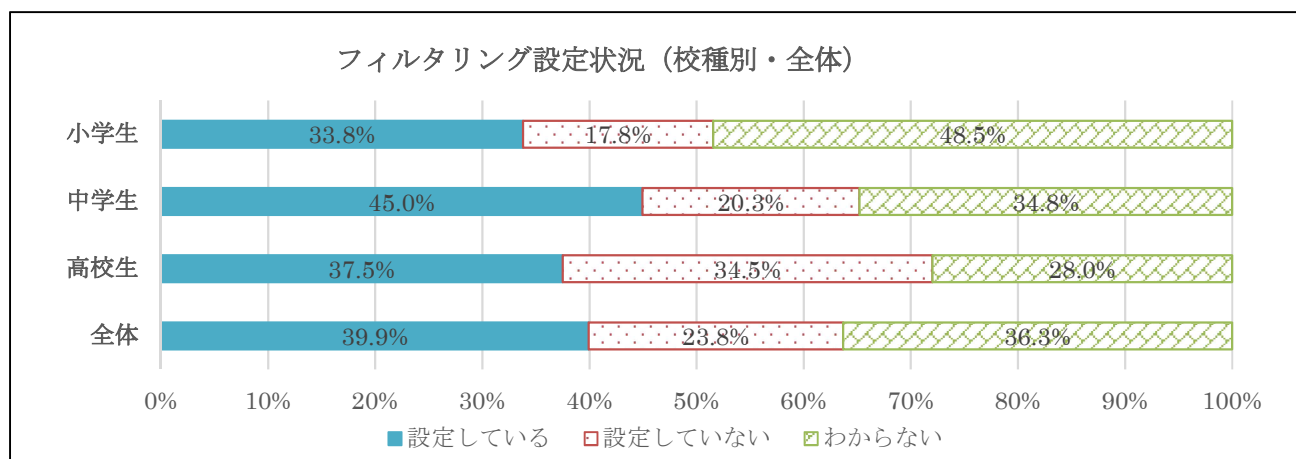
○ 携帯電話等を持ち始めた時期を校種別で見ると、小学生は小学校中学年、中学生は小学校高学年、高校生は中学校から持ち始める子供が最も多く、小学生では、10.8%が小学校入学前に持ち始めており、校種が下がるほど、持ち始める時期が早くなっている傾向が見られた。

イ 携帯電話等の主な使用目的



○ 使用目的は、全校種で動画視聴が多く、次いで小学校はゲーム、中高校生はコミュニケーション目的の割合が多かった。

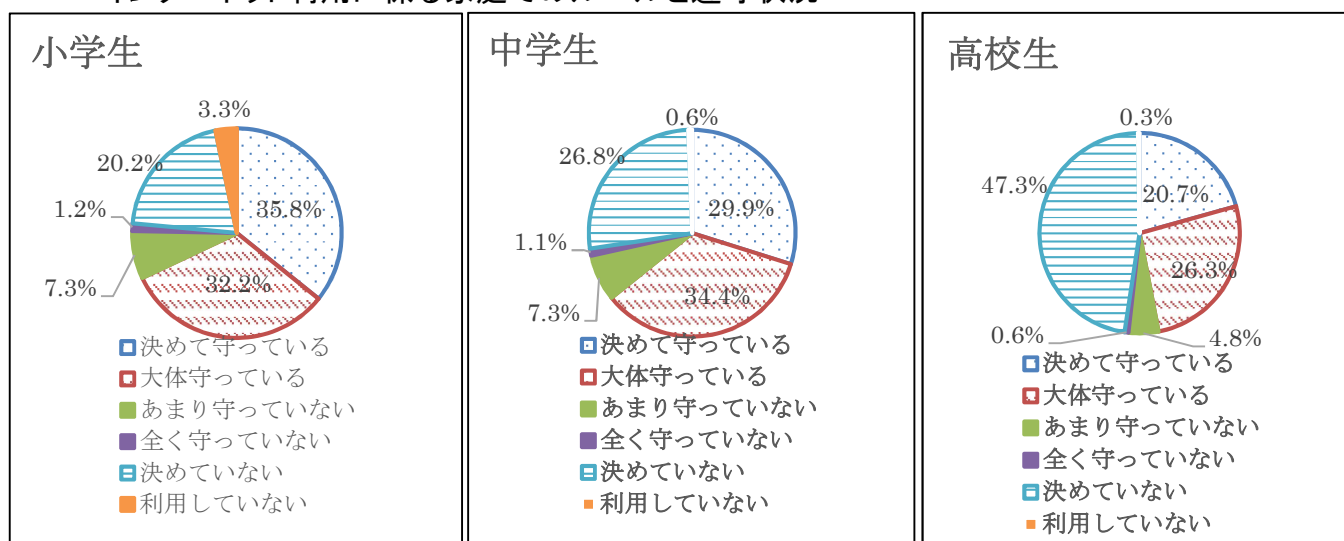
ウ フィルタリング設定状況



○ 「設定している」小・中・高の平均は39.9%（前年度比+1.0%）

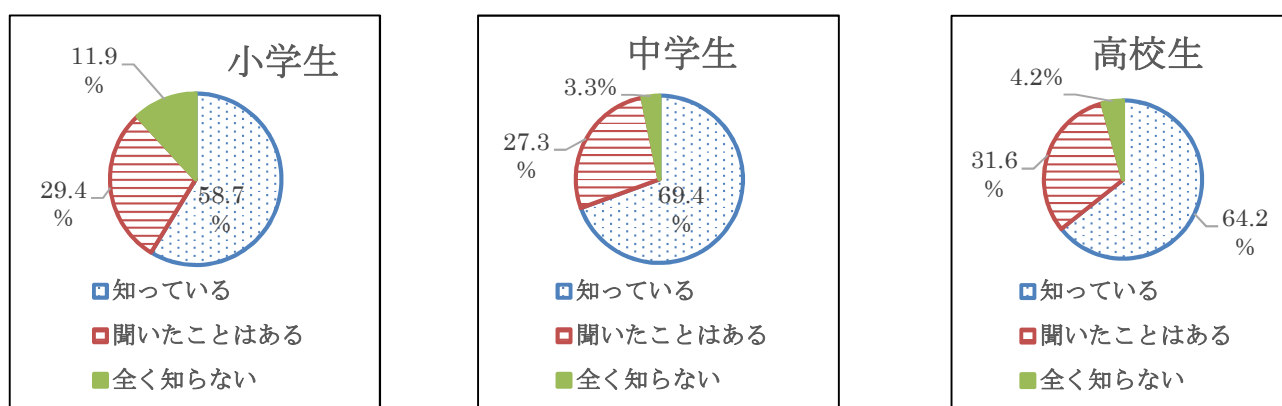
○ 「設定していない」の小・中・高の平均は23.8%（前年度比+4.8%）

エ インターネット利用に係る家庭でのルールと遵守状況



○ 「家庭でルールを決めていない」と回答した割合は、校種が上がるごとに増加

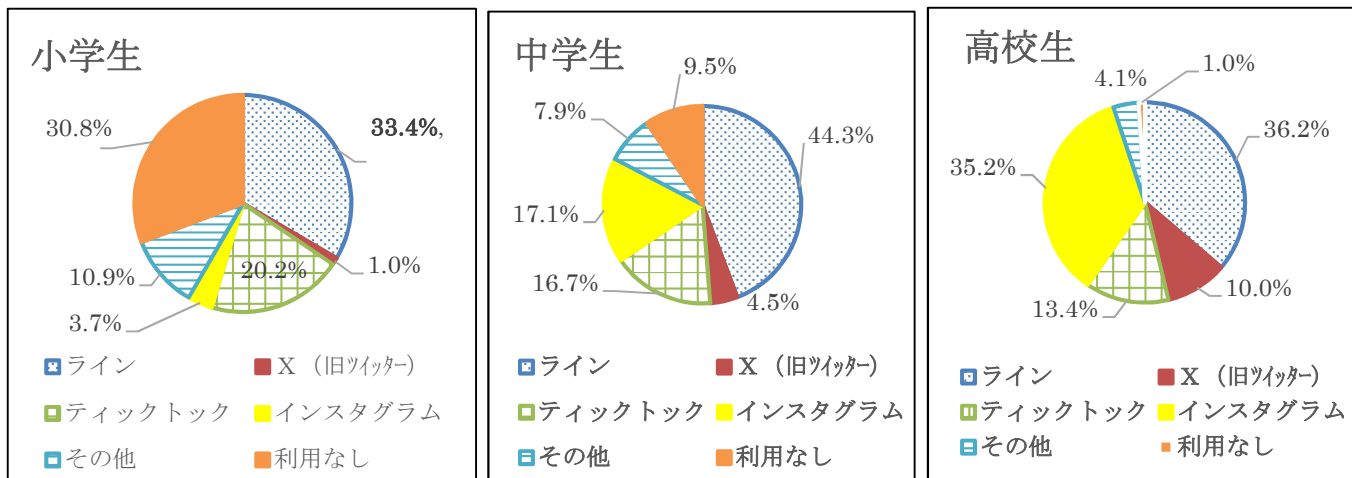
オ セーフティネット標語「おぜのかみさま」の認知度（対象者全員が回答）



○ 小学生の「全く知らない」という回答が11.9%と中・高に比べ多いことから、セーフティネット標語「おぜのかみさま」の周知を更に高めていく必要がある。

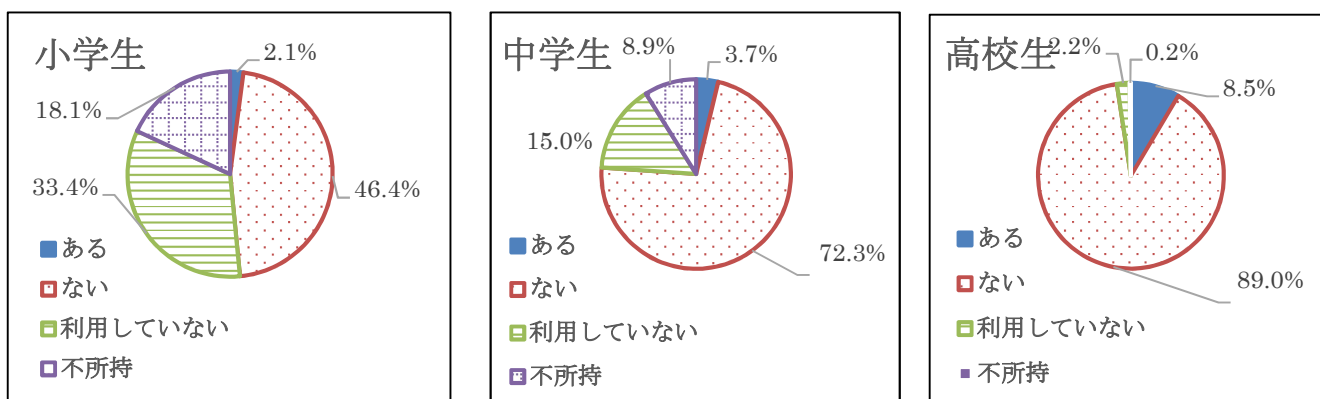
(2) SNS の利用状況等

ア SNS の利用状況



○ 学年が上がるごとに、X(旧ツイッター)、インスタグラムを利用している子供の割合が高くなっている。

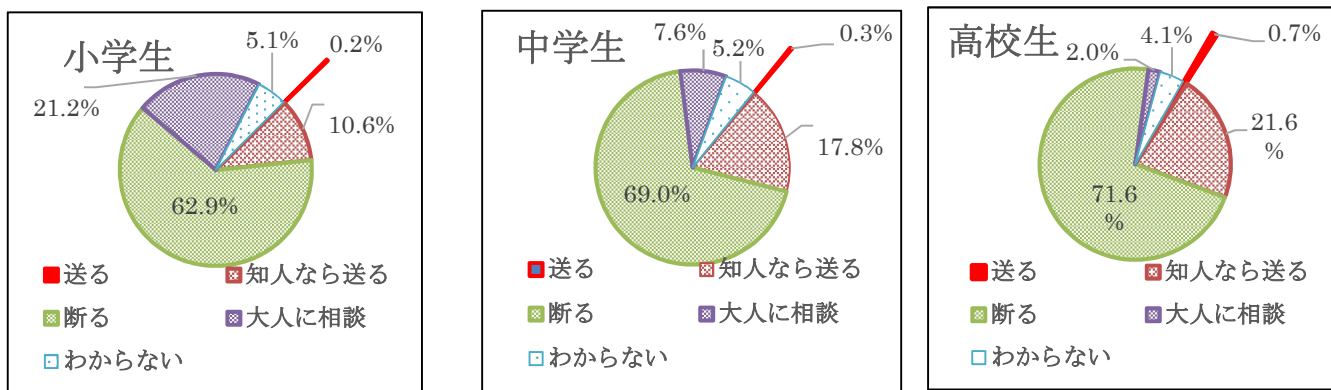
イ SNS で知り合った人と直接会ったことがある



○ 「ある」は、全校種とも減少した。

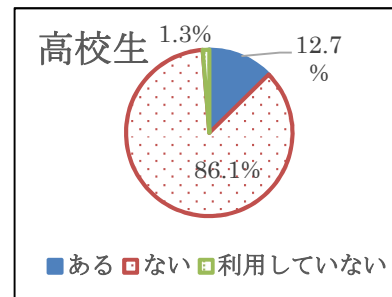
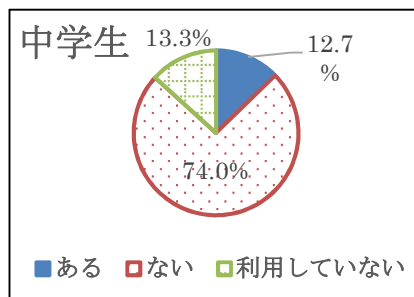
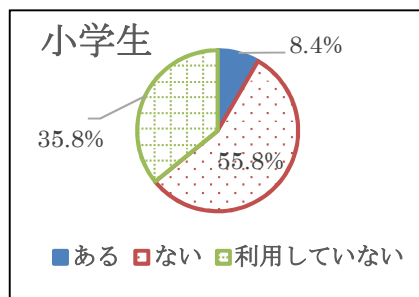
(小学生:前年度比-1.1%、中学生:前年度比-1.8%、高校生:前年度比-1.1%)

ウ SNS で自分の画像を送ってと頼まれた時の反応について



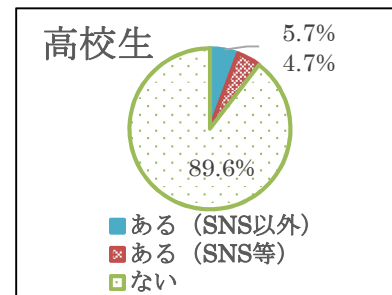
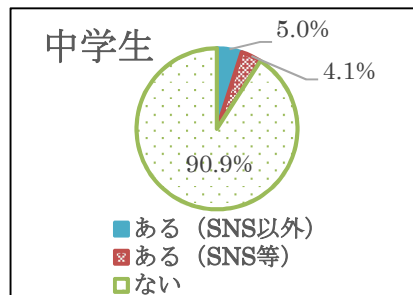
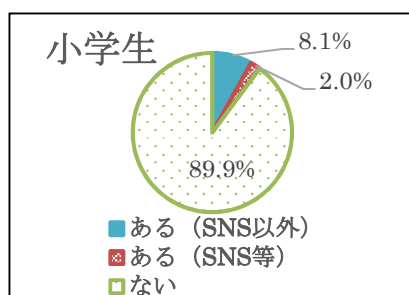
○ 「送る」と回答した割合は少数だが、「知人なら送る」は校種が上がるごと増加傾向

エ SNSで闇バイトの情報を見たことがある



○「ある」は学年が上がるごとに増加

オ SNSでいじめられた経験がある



○「SNS等被害」は全校種で増加傾向

(小学生:前年度比+3.4%、中学生:前年度比+1.2%、高校生:前年度比+3.2%)